

令和8年1月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和8年1月号」をお送りしますので、御高覧くださいますようお願いいたします。

さて、市では、昨年12月に令和7年の10大ニュースを発表しました。

### <令和7年 八戸市10大ニュース（一般部門）>

**特別枠 12月8日深夜 青森県東方沖を震源とする地震の発生 八戸市は震度6強を観測**

1位 みちのく記念病院入院患者殺害隠蔽事件 元院長と主治医逮捕

同院に対し県行政処分、市行政指導（2月・9月）

2位 小田、日計、八太郎地区でクマ目撃続発！市内各地でクマなどの野生動物の目撃相次ぐ（2～10月）

3位 ヴァンラーレ八戸 快進撃！（11月）

4位 「新大橋」6年ぶり開通（3月）

5位 八戸市長 熊谷氏再選（10月）

6位 青森みちのく銀行誕生 質の高い金融サービス目指す（1月）

7位 イオンスタイル八戸沼館オープン 待ちわびた市民長蛇の列（4月）

8位 カムチャツカ半島地震 八戸で津波80センチ観測（7月）

9位 元農林水産相 田名部匡省氏逝去（3月）

10位 豊漁でTACを超過 スルメイカ漁停止命令へ（10月）

12月8日深夜に発生した地震は、市民の皆様に多大な被害がおよんだことから、「特別枠」を設けた10大ニュースとしています。

本年は、第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」が開催され、冬季大会が1月31日から行われます。一年を通して全国から多くの方々が訪れる事から、地震で大きな被害を受けた八戸の活気を取りもどす足掛かりにしたいと考えております。

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、連絡先などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

令和7年12月の八戸市内での出来事や  
八戸市に関連する情報をお届けします。

# 八戸レポート

1月号

## 【行政】

記事	概要
(1)	トイレカー初の活用 小中学校や児童館に出動
(2)	市、次期総合計画策定へ市民ワークショップ開催 地元で心地よく暮らすためには
(3)	熊谷市長ら復旧支援要請
(4)	外国人の地域参加促進 多文化共生推進プラン 八戸市が2次案提示
(5)	八戸市民に8000円商品券 プレミアム食事券販売も 物価高・地震被害に対応

## 【産業】

記事	
(6)	マルヌシ（八戸）が新ブランド 八戸港水揚げ船凍キンメダイ活用
(7)	八戸商議所が特産品セット「八戸まんてん」商品企画
(8)	八戸の水産加工品高評価 金目鯛あぶりハム（開洋漁業）最高賞
(9)	青森つばめプロパン販売（八戸）東北経産局特別賞受賞
(10)	三菱製紙 八戸工場リニューアルへ 250億円投じ設備更新

## 【地域】

記事	概要
(11)	種差海岸駅舎リニューアル 天井に鳥観図を装飾
(12)	みなとつと（八戸）×シン八戸共同企画 魚の詰め放題人気
(13)	種差冬バル 食や月見、ゆったりと満喫
(14)	八戸クリスマスマーケット 地震後にぎわいプレゼント
(15)	南部民謡、からくり時計に こどもはっちへ寄贈
(16)	JR八戸線全線運転再開

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	八戸、久慈、二戸圏域郷土芸能交流祭 南部あいや節など披露
(18)	あおもり国スポ・障スポカウントダウンボード設置 はっちで除幕式
(19)	J3優秀選手賞にヴァンラーレから7人 ベストイレブンには3人選出
(20)	八戸市美術館 来館50万人 4年で達成 コンセプト徐々に浸透

## 【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>トイレカー初の活用 小中学校や児童館に出動</b></p> <p>12月8日夜に八戸市で震度6強を観測した地震でトイレが使用できなくなった小中学校などに、市が昨年度導入した自走式の水洗トイレカー3台が初めて出動した。12月10日は水道設備に不具合が生じた白銀小から要請があり、15日には汚水管の破損が判明した豊崎中、17日には汚水管不具合が発覚した吹上児童館に出動。トイレカーは青森県内で始めて導入されたもので、洋式トイレの個室を2室搭載し、温水洗浄便座や手洗い場も備える。学校関係者は「児童が不自由なくトイレを使うことができ助かった」と効果を実感していた。</p>
(2)	<p><b>市、次期総合計画策定へ市民ワークショップ開催 地元で心地よく暮らすためには</b></p> <p>八戸市は次期市総合計画（2027～34年度）の策定に向けて、市民ワークショップを開いた。八戸の将来を担う若者や市民の声を計画に反映するとともに、地元定着への関心を高めるのがねらい。第1回の12月13日は社会人のみを対象に実施し、第2回の20日は、高校生や大学生、社会人約60人が参加。参加者はグループに分かれて、遊ぶ・楽しむ・働く・学ぶ・暮らすなどのテーマで話し合い、10年後に地元で心地よく暮らすためには何が必要か、八戸の未来に向けて提言した。</p>
(3)	<p><b>熊谷市長ら復旧支援要請</b></p> <p>地震からの早期復旧に向け、熊谷市長は12月23日、経済産業省と総務省を訪ね、井野経産副大臣と高橋総務副大臣に被災事業者への支援や復旧・復興に向けた地方財政措置などを求めた。24日には、内閣府に対し防災庁の地方拠点設置について市内への設置を要望したほか、防災担当の津島内閣副大臣を訪問し、地震の被害状況を説明した。また、23日には東京・内幸町「8 base」の店舗前で、地震による影響でダメージをうけている八戸市内の観光需要を喚起しようと、熊谷市長や市職員らが首都圏在住者への観光PR活動を行った。</p>
(4)	<p><b>外国人の地域参加促進 多文化共生推進プラン 八戸市が2次案提示</b></p> <p>八戸市は12月25日、日本人と外国人の相互理解を目指して初めて策定を進めている多文化共生推進プランの2次案を提示し、外国人の地域活動への参加促進や創業支援、留学生の市内就職促進など計32件の事業プランを盛り込む方針を明らかにした。計画期間は2026～30年度で、外国人住民にも地域社会の一員としてまちづくりに積極的に参加してもらう「攻めの多文化共生」が特徴。市は、多文化共生推進審議会の意見を踏まえて2次案を修正し、1月にパブリックコメントを実施。2月の審議会を経て、3月にプランを策定する方針。</p>
(5)	<p><b>八戸市民に8000円商品券 プレミアム食事券販売も 物価高・地震被害に対応</b></p> <p>八戸市は12月26日、地震被害を踏まえ、政府の総合経済対策に呼応した「物価高騰・震災復興支援パッケージ」を発表した。日用品など市内店舗で使用できる市民一人当たり8,000円の商品券を配布するほか、被害を受けた飲食店で使用できるプレミアム食事券を販売する。食事券のプレミア率は60%で、5,000円で8,000円分の利用が可能。一人1セット限りの購入で応募多数の場合は抽選となる。いずれも来年春以降の配布や利用開始を見込む。総事業費約20億円は国の重点支援交付金を全額充当する。</p>

【産業】

記事	概要
(6)	<p><b>マルヌシ（八戸）が新ブランド 八戸港水揚げ船凍キンメダイ活用</b></p> <p>八戸港が水揚げ量日本一を誇る船凍キンメダイの普及拡大に向け、八戸市の水産加工会社「マルヌシ」は独自の新ブランド「八戸キンメ！」を立ち上げた。重さ450g以上の特大サイズのみを厳選しているのが特徴で、ブランド商品第1弾として「金目鯛の一夜干し」と「金目鯛の煮つけ」を開発。12月5日には同市のユートリーで商品発表会が開かれ、煮つけを試食した来場者からは「食感が柔らかくておいしい」との声が聞かれた。希望小売価格（税込み）は一夜干しが1,280円、煮つけが1,480円。ユートリーや蕪島物産販売施設「かぶーにや」で販売している。</p>
(7)	<p><b>八戸商議所が特産品セット「八戸まんてん」商品企画</b></p> <p>八戸商工会議所は、八戸地域の特産品を詰め合わせた「八戸まんてん」を商品企画した。地場産品の消費喚起や販路拡大につなげるのが狙い。第1弾は、地元で愛され続ける商品をテーマに、1セットで晩ご飯が楽しめる商品構成で青天の霹靂300g（ライケット）、昔ながらのさば味噌煮（武輪水産）、八戸せんべい汁セット（味の海翁堂）など5種類の八戸地域の特産品を詰め合わせた。関係者は「ボックス一つで八戸の名産を味わえる。食のまち・八戸のおいしい商品を全国にアピールできたら」とPRしている。価格は税込み3,300円でユートリーや八食センターなどで購入できる。</p>
(8)	<p><b>八戸の水産加工品高評価 金目鯛あぶりハム（開洋漁業）最高賞</b></p> <p>2025年度の全国水産加工品総合品質審査会で、八戸市の開洋漁業が開発した「金目鯛あぶりハム」が最高賞の農林水産大臣賞に輝いた。審査会は全国水産加工業協同組合連合会の主催。全国から716品の応募があり、八戸関係では同社のほか、ディメールの「金目鯛の棒寿司」が大日本水産会長賞、武輪水産の「八戸たけわ食堂 スタミナ源たれ さばの味噌煮」が全国水産加工業協同組合連合会会長賞を受賞した。受賞3社の社長は12月18日、八戸市庁を訪れ熊谷市長に結果を報告した。受賞3商品はオンラインショップなどで購入できる。</p>
(9)	<p><b>青森つばめプロパン販売（八戸）東北経産局特別賞受賞</b></p> <p>八戸市の燃料小売業・青森つばめプロパン販売のDX・業務効率化の取組が東北経済産業局の「TOHOKU DX大賞2025」特別賞に選ばれ、12月23日、同社で授与式が行われた。灯油の定期配送を行う同社は、2024年度に青森県のDX関連の補助金を活用し、契約先のホームタンクにセンサーの取り付けを開始。計測した灯油残量を遠隔から一元的に管理することで、適切なタイミングでの配送が可能となった。業務効率化で生まれた人員や時間を新たなサービスに振り分け、事業の多様化につなげている点が評価された。</p>
(10)	<p><b>三菱製紙 八戸工場リニューアルへ 250億円投じ設備更新</b></p> <p>三菱製紙（東京）は12月25日、2027年度に操業60周年を迎える主力の八戸工場について、30年度までに総額約250億円を投じて設備やシステムなどを更新し、次世代型の工場へリニューアルすると発表した。青森県の誘致企業第1号として1967年1月に操業を開始した八戸工場は、設備の老朽化が進み、生産性や職場環境の面で課題が顕在化。今回の投資により、先端技術を搭載した最新設備への刷新で生産プロセスの効率化・省力化、徹底したエネルギー効率の追求で脱炭素を進めるほか、従業員の福利厚生の充実を図るため、社宅や寮を再整備する方針。</p>

【地域】

記事	概要
(11)	<p><b>種差海岸駅舎リニューアル 天井に鳥観図を装飾</b></p> <p>JR八戸線の種差海岸駅の駅舎がリニューアルし、12月1日から使用が始まった。昨春には駅周辺に「ミチル種差」が開業するなど地域を盛り上げる取組が生まれる中で、列車を使った誘客を図ろうと昨年10月から着工。外観は鳥瞰図絵師の吉田初三郎が種差海岸に構えたアトリエ兼別荘「潮観荘」をイメージし、駅舎の天井に、初三郎作の「八戸市鳥瞰図」を装飾した。同日、同駅で記念式典が行われ、地元小学校の児童が歌やよさこいを披露し、生まれ変わった駅舎のスタートを祝った。</p>
(12)	<p><b>みなとっと（八戸）×シン八戸共同企画 魚の詰め放題人気</b></p> <p>八戸市の「浜市場みなとっと」は12月7日、地元鮮魚のブランド化を目指す八戸水産価値向上実行委員会（愛称・シン八戸）との共同企画で、魚の詰め放題イベントを実施した。シン八戸の活動と関わりのある定置網船3隻が土曜に水揚げした場合、翌日の日曜に行われる仕組み。魚種や数量は水揚げ状況によって異なる。10月の初開催から3回目となるこの日は、開店前から十数人が並び、来場者は用意されたビニール袋に2分以内に詰めるというルールで、楽しみながら新鮮なマイワシやサバを詰めていた。</p>
(13)	<p><b>種差冬バル 食や月見、ゆったりと満喫</b></p> <p>冬の絶景を眺めながら地元食材を使った料理を味わえる「種差冬バル」が12月7日、種差海岸インフォメーションセンター周辺で開催された。種差海岸が閑散期となる冬の誘客につなげようと、同市のNPO法人「ACTY」が企画。八戸市中心街の飲食店の若手シェフらが、旬の魚介などを使った小皿料理を提供し、来場者は太平洋を見渡せる屋外の会場で、ワインや地酒とともにゆったりと美食を満喫した。また、夜には種差から昇る月を鑑賞する月見会も開かれ、青森県内外から幅広い世代が来場し大盛況となった。種差冬バルは3月まで計5回開催予定。</p>
(14)	<p><b>八戸クリスマスマーケット 地震後にぎわいプレゼント</b></p> <p>八戸市中心街に新たにぎわいの創出を目指すイベント「八戸クリスマスマーケット」が12月20日、市庁前で初めて開かれた。8日夜の地震で市内各所に被害が発生する中、実行委員会のメンバーは、復興を目指すイベントにしたいとの思いを込めて実施にこぎ着けた。「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が終了してから初の週末となったこの日、会場ではサンタ号の運行やフォトスポット、キッチンカー、音楽ライブなどが行われ、想定以上の来場者があった。市民は催しを満喫し、中心街の店舗にも多くの人が繰り出した。</p>
(15)	<p><b>南部民謡、からくり時計に こどもはっちへ寄贈</b></p> <p>八戸市の木製からくり作家高橋みのるさんが制作した「からくり時計」が12月24日、同市の子育て支援拠点「こどもはっち」に寄贈され、お披露目会が開かれた。こどもはっちが2月に15周年を迎えることから高橋さんが企画し、制作費用にはクラウドファンディングを活用。定刻になると、南部地方の民話「ねずみの相撲」が紙芝居のように流れる。南部弁の保存・継承に努める市公民館の沼谷伸夫館長が語り手を担当した。からくりの民話は午前9時半から一日8回、1時間おきに作動。こどもはっちの利用者が楽しめる。</p>

	<b>JR八戸線全線運転再開</b>
(16)	12月8日の地震の影響で区間運休していたJR八戸線が30日、約3週間ぶりに全線で運転再開した。地震の影響で、高架区間の本八戸一小中野間に大きな損傷が約20か所発生。9日から全線で運休し復旧工事を進め、22日に鮫一久慈間で運転を再開したが、八戸一鮫の区間は引き続き運休し、代行バスの運行となっていた。30日、八戸駅では八戸市や観光関係者が「ガンバロー八戸 八戸・三陸の観光は元気です！」との横断幕を掲げ、八戸発久慈行きの一番列車を見送った。

### 【文化・スポーツ】

記事	概要
	<b>八戸、久慈、二戸圏域郷土芸能交流祭 南部あいや節など披露</b>
(17)	第48回民族芸能の夕べ兼北緯40度ナニヤトヤラ連邦郷土芸能交流祭が12月6日、SG GROUPホールはちのへ（八戸市公民館）で開かれた。「夕べ」は毎年市教育委員会が主催。交流祭は北緯40度ナニヤトラヤ連邦会議が八戸、久慈、二戸の各市持ち回りで開催している。今回は八戸市の白銀おしまこ、中野神楽保存会など各市の7団体が参加し、白銀おしまこや南部あいや節などの演目が披露された。集まった市民ら約400人が3圏域に伝わる伝統芸能の奥深さを味わった。
	<b>あおもり国スポ・障スポカウントダウンボード設置 はっちで除幕式</b>
(18)	青森県で2026年に行われる「青の煌めきあおもり国スポ・障スポ」に向け、八戸市は12月14日、市庁本館と八戸ポータルミュージアムはっちにカウントダウンボードを設置した。同市では冬季大会で2競技、本大会で7競技、障スポで2競技を実施予定。モニターに各大会開催までの日数やアニメーションが表示される。本大会まで300日の節目だったこの日は、はっちでカウントダウンボードの除幕式を開き、熊谷市長や製作を担当した八戸高専の学生らが立ち会って2台をお披露目した。
	<b>J3優秀選手賞にヴァンラーレから7人 ベストイレブンには3人選出</b>
(19)	Jリーグは12月17日、今季J3の優秀選手賞を発表し、J2への昇格を決めたヴァンラーレ八戸から7人が選ばれた。クラブからの選出は初めて。選ばれたのは、GK大西、DF白井、DF蓑田、MF音泉、MF佐藤、MF永田、FW澤上。また、24日には監督や選手の投票を基に決定する「J3アウオーズ」が発表され、GK大西、DF蓑田、FW澤上がベストイレブンに、石崎監督が優秀監督賞に輝いた。J2クラブとしての初陣は、2月に開幕する特別大会「J2・J3百年構想リーグ」で、2月8日にアウェーでJ3栃木SCと対戦する。
	<b>八戸市美術館 来館50万人4年で達成 コンセプト徐々に浸透</b>
(20)	2021年11月に新築され再開館した八戸市美術館が、12月21日に来館50万人を達成した。これまで開催した企画展の入場者数は、「ポケモン×工芸展 美とわざの大発見」（25年6～8月）が約4万3千人で最多。館内中心部に活動スペース「ジャイアントルーム」を設置しているのが施設の大きな特徴で、美術作品に触れるだけではなく、市民やアーティスト、スタッフらが共に学び、創り上げる「出会いと学びのアートファーム」がコンセプト。「これまでにない美術館」の形を模索し、約4年で大きな節目の数字を記録した。

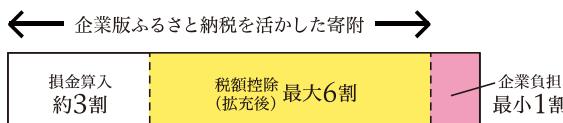
# 企業版ふるさと納税の3つの魅力

## ① 税制上の優遇が受けられる

損金算入による軽減効果(寄附額の約3割)と合わせて、税額控除(寄附額の最大6割)により、最大で寄附額の約9割が軽減されます。

## ② 社会貢献

SDGsやESGへ寄与できます。



## ③ 自社PR

ご寄附をいただけた企業様を八戸市HPとSNSでご紹介いたしますので、企業様のPRに繋がります。

## 申込み方法

- 電話
- メール
- 二次元バーコード

## 申込み・お問合せ先

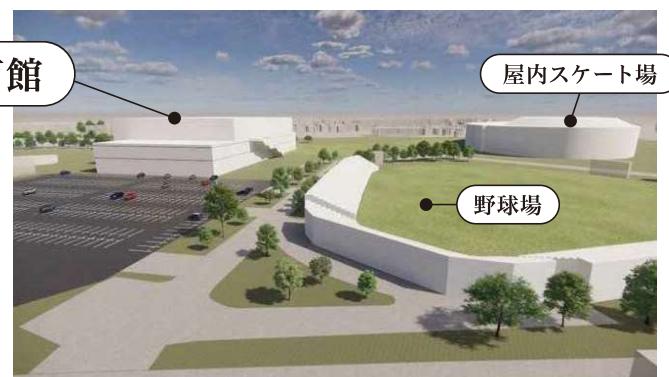
政策推進課  
企業版ふるさと納税担当  
TEL:0178-43-9233  
Email:seisaku@city.hachinohe.aomori.jp



## [ 寄附受付事業 ]

### ●新体育館の建て替え

スポーツやイベントなど、市民の多様な活動の場として、年間約37万人に利用されています。竣工から半世紀以上経過していることや、時代の移り変わりとともに変化する多様なニーズに応えるため、計画的に準備を進めています。



### ●八戸市の魅力発信

八戸市のマスコットキャラクター「いかづきんず」や公式SNSなどを活用して、当市の魅力を広く発信しています。

- 魅力を発信することで
- ◎市民の地元に対する愛着や誇りを醸成したい。
  - ◎国内外の人々の当市への関心を高めたい。
  - ◎交流人口や定住人口の創出・拡大につなげたい。



### ●八戸産ぶどうを活用したワイン産業振興

農業振興のみならず、商工業や観光業にも繋がる「ワイン産業」の振興を目指しています。

### ●創業・事業継承の支援拠点運営

創業及び事業継承の支援拠点を設置し、専門家による相談対応やセミナー開催等により、創業希望者等を支援しています。

### ●八戸市ブックスタート事業

八戸市在住の赤ちゃんとその保護者を対象に、おすすめブックリストや絵本をプレゼントしています。

申込み方法

## 郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。→ 
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

送付先・お問合せ先

広報統計課 ふるさと寄附金担当  
〒031-8686 青森県八戸市内丸1-1-1  
TEL:0178-43-2319  
FAX:0178-47-1485  
Email:furusatotax  
@city.hachinohe.aomori.jp

## インターネット

- 下記5つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



ふるなび

JRE MALL



Amazonふるさと納税



八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っています。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いします。

また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

はちのへ

# ふるさと寄附金のご案内

## 『ふるさと寄附金』で八戸を元気に！

八戸市では、「八戸を応援したい！」「八戸が大好き！」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただいております。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください！



### ふるさと寄附金の3つの魅力

#### ① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

#### ② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。（控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。）

#### ③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。



## 八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 大西 伸一郎 [主査] 斎藤 千聖 [事務員] 浜井 章代



八戸市  
Hachinohe City